

最新情報は…

国立妙高

検索

Open the Door! Vol.10 平成28年3月発行



独立行政法人国立青少年教育振興機構
 国立妙高青少年自然の家
 コミュニケーションマガジン

Open the Door! Vol.10

元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい! 踏みだそう最初の一步「オープン・ザ・ドア!」

独立行政法人国立青少年教育振興機構
 国立妙高青少年自然の家
 コミュニケーションマガジン

Open the Door!

Vol.10



体験の風を
 風おこそう

特集Ⅰ 青少年教育施設における
 ユニバーサルデザイン化への挑戦

特集Ⅱ 学校・青少年団体の応援団として
 ～自然の家のプログラムを活用して～



GACHAPIN × MUKKU
 © FUJITSU KIDS
 国立青少年教育振興機構

※ガチャピンとムックは、「体験の風をおこそう」運動の応援団です。

全ての子供たちに豊かな体験活動を

「体験の風をおこそう」運動

特集Ⅰ 青少年教育施設における

ユニバーサルデザイン化への挑戦

特集Ⅱ 学校・青少年教育団体の応援団として

自然の家のプログラムを活用して

独立行政法人国立青少年教育振興機構では、実体験が少なくなってきた全国的な子供たちに多くの体験活動を提供することと、その体験活動の重要性を啓発する「体験の風をおこそう」運動を行っています。

新潟県でも、新潟県青少年教育施設連絡協議会に所属する12の青少年教育施設を中心に、「新潟の地域ぐるみで体験の風をおこそう運動」を展開しています。

このような運動を受けて当施設で行っている2つの実践を「特集Ⅰ」「特集Ⅱ」として紹介します。

「特集Ⅰ」では、「青少年教育施設におけるユニバーサルデザイン化への挑戦」と題して、国立赤城青少年交流の家と共に、新潟県立青少年研修センター、新潟県少年自然の家、前橋市立少年自然の家と連携して、特別な支援を要する子供たちを含めた全ての子供たちが、分かりやすく安心して「体験活動」ができる施設を目指した取組を紹介します。

まず、「MYOKOチャレンジ2015」（当写真の事業）で実践したユニバーサルデザイン化の取組では、青少年教育施設が得意技としている仲間を認め合う「望ましい集団（仲間）づくり」です。発達障害や課題を抱えて参加している子供たちがいた場合、何よりも自分を受け入れてくれる仲間がいてくれることが、安心して挑戦できる学習環境となります。

「幼児キャンプ」では、対象年齢が幼児であったり、初めて出会う仲間だったりすることから、「体験活動を構造化」して、「写真」や「言語」を使って「視覚的」に分かりやすく提示したり、「使いやすい道具」や「説明の仕方を工夫」したりした取組を紹介します。

最後は、全ての利用者にとって利用しやすい施設の案内標示やマナー標示及び施設設備の在り方等について取り組んだ内容です。

「特集Ⅱ」では、当施設職員が、長期キャンプや妙高の特色あるプログラムとして開発した教育プログラムを中心に、3年間にわたって関わった三条市立大島中学校との取組や、学校の教育課程に位置づけられる「妙高火山学習プログラム」を小学校に活用してもらった取組、そして、最後は、「特集Ⅰ」で開発しているユニバーサルデザイン化の取組を公立施設と協働実施したはねうまキャンプについて紹介します。

皆様のご批評を賜りたくお願い申し上げます。

仲間と辿った道

急な坂道、

でこぼこ道、

長い長い道のり

一歩一歩踏みしめて目標へ

仲間と一緒に乗り越えた

一歩一歩踏みしめた山頂への道

仲間と感動の瞬間

僕らはひとまわり大きくなった

移動型長期チャレンジキャンプ

1. MYOKOチャレンジ2015



7都府県の小学校五年生から中学校二年生までの十六名の児童生徒が参加しました。長野県と新潟県にまたがる「信越トレイル」と妙高市の「火打山」を活動場所として十二泊十三日の日程で実施しました。トレッキング、野外炊事、ラフティング、バナナボートなどの活動を、仲間と協力しながら行いました。

今回のキャンプにおけるユニバーサルデザイン化で、特に重要視したのが「望ましい集団（仲間）づくり」です。お互いを認め合える望ましい人間関係の中であれば、課題を抱えた子供だけでなく、全ての子供たちは安心して活動することができます。

今回のキャンプで、望ましい集団を作り、参加者一人一人が安心してチャレンジするために具体的に実践した支援策は次の通りです。

- 子供たちの指導のあり方（カウンセリング・マインド・発達障害の理解・子供理解の方法など）について研修し、スタッフ全員で指導方法に共通認識をもった上で子供たちを支援した。
- 参加した子供たちの個々の情報についてスタッフで共有し、支援の方法を確認した。
- グループごとに話し合い活動を毎日行い、「グループのために必要なこと」「グループのために必要でないこと」を話し合い、自分たちでルールを作るといった活動を行った。
- スタッフは話し合いをスムーズに進めるために、適宜介入した。
- 様々な場面でそれぞれの良いところを見つけ、肯定的に評価することで、あたたかい雰囲気を作ることに努めた。
- 自然に起きたトラブルをそのままにせず、子供たちが話し合って主体的に解決できるように支援した。

子供たちは安心できる環境の中で、心を開き、ありのままの自分で仲間とコミュニケーションをとることができたので、日々の活動が充実していきました。閉会式の時には、十三日間の様々な思いから涙を流して仲間との別れを惜む姿、家族や仲間への感謝の気持ちを素直に発表する姿、そして自分の成長したことを堂々と表現している姿が見られました。日々成長していく「集団」の中で、「一人一人、大きく成長すること」ができたのです。



	日付	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
出立のステップ	1日目	7月28日(火)						受付	開会式	出発	宿舎に到着後、準備活動		夕食				就寝
	2日目	7月29日(水)	つどい	朝食	準備	信越トレイルチャレンジ① 天水山～深坂峠～野々海峠(約5km)		昼食	野々海峠～須川峠～伏野峠 (約7.5km)		テント準備	夕食準備	夕食	振り返り	準備		就寝
	3日目	7月30日(木)	つどい	朝食	準備	伏野峠～幻の池～宇津ノ俣峠～立花山 伏野峠～約5.5km)		昼食	立花山～牧峠～梨平峠～開田峠 (約6km)		移動	夕食準備	夕食	振り返り	準備		就寝
	4日目	7月31日(金)	つどい	朝食	準備	昼食作り		星の学習(星のふるさと館)				入浴・夕食	夕食	振り返り	準備		就寝
協力者のステップ	5日目	8月1日(土)	つどい	朝食	準備	信越トレイルチャレンジ② 光ヶ原キャンプ場～開田峠～鍋倉山(約8km)		昼食	鍋倉山～小沢峠～仏ヶ峰登山口 (約5.5km)		テント準備	入浴	夕食	振り返り	準備		就寝
	6日目	8月2日(日)	つどい	朝食	準備	仏ヶ峰登山口～桂池～黒岩山 (約5km)		昼食	黒岩山～富倉峠～浦井 (約7.5km)		移動	入浴	夕食	振り返り	準備		就寝
	7日目	8月3日(月)	つどい	朝食	準備	ラフティングチャレンジ(信濃川)					入浴	夕食準備	夕食	振り返り	準備		就寝
自らのステップ	8日目	8月4日(火)	つどい	朝食	準備	信越トレイルチャレンジ③ 浦井～毛無山～希望湖(約6.5km)		昼食	希望湖～沼ノ原湿原～赤池 (約4km)		テント準備	入浴	夕食準備	夕食	振り返り	準備	就寝
	9日目	8月5日(水)	つどい	朝食	準備	赤池～袴岳～万坂峠(約5.5km)		昼食	万坂峠～斑尾山頂～登山口 (約5.5km)		移動・入浴	夕食準備	夕食	振り返り	準備		就寝
	10日目	8月6日(木)	つどい	朝食	準備	片付け	移動	昼食	レイクチャレンジ(野尻湖)		移動・入浴	テント準備	夕食準備	夕食	振り返り	準備	就寝
挑戦のステップ	11日目	8月7日(金)	つどい	朝食	登山チャレンジ準備				火打山チャレンジ①(笹ヶ峰～高谷池ヒュッテ)		テント準備	夕食準備	夕食	振り返り	準備		就寝
	12日目	8月8日(土)	つどい	朝食	準備				火打山チャレンジ②(高谷池ヒュッテ～火打山頂～高谷池ヒュッテ～笹ヶ峰)		入浴	ゴールパーティー	振り返り				就寝
	13日目	8月9日(日)	つどい	朝食		後片付け			閉会式								



2. 幼児期におけるユニバーサルデザイン



◆ユニバーサルデザインの視点が

今回の幼児キャンプを企画・運営する上で重要視したことの一つに、「ユニバーサルデザイン化」があります。参加者が多くの地域から様々な環境で育った幼児とその保護者であることや、本施設を初めて訪れるという方でしたので、スタッフで相談し、「誰もが安心して安全に活動でき、みんなが満足できるキャンプ」を目指しました。

どの活動においても、「説明は短く」、言葉だけではなく「写真や絵」を使って示すよう工夫しました。特に、竹を使った割りばし作りでは、なたや小刀などの刃物を扱うということもあり「活動の構造化」を図り、「作り方や道具の使い方、気を付けること」が「写真と言葉で視覚的」にわかるような資料を使用しました。

また、左利き用の小刀や先が丸くなった包丁など「対象年齢や個人にあった道具」を用意したことで、どの幼児も安心して安全に活動することができ、主体的に挑戦する幼児の姿がみられました。

さらに、夏のキャンプでは、雨のために日程や集合場所を急遽変更しなくてはならないということがありましたが、伝達事項は口頭だけでなく、「回覧板」のように文書で回し、すべての参加者に確実に伝わるように工夫しました。その結果、多くの参加者から「情報が正確に伝わって安心しました」という声が聞かれました。

3日間のキャンプを通して、ゆとりのある日程を組みましたが、幼児の体調や心の動きに合わせて活動の始まりや終わりの時間を変更することで、幼児も保護者もゆったりと活動できるキャンプにすることができました。

◆活動内容について

平成27年度の「幼児キャンプ」は夏（8月）と冬（1月）の年2回、どちらもと泊3日で開催し、1都6県という全国各地からの参加がありました。

このキャンプでは、自然体験活動や集団宿泊体験を通して幼児の自立や社会性及び基本的な生活習慣の基礎を養うことをねらいとしています。他には、保護者にとつての子育て支援の一助として、研修やボランティアとして参加する妙高市内の保育教諭や近隣大学等の学生の育成や資質向上にも役立てたりしています。

主な活動として、夏はオリエンテーリングや親子別々でのテント泊、冬は深雪体験や雪像づくりなどがあります。

オリエンテーリングでは、森の中で見つけた自分の顔より大きな葉っぱや虫に感動したり、グループで協力してポイントを探したりすることで自然とも仲間とも深くかかわる力を身に付けました。また、テント泊では、初めは親と離れるのが寂しくて泣いてしまう子もいましたが、最後には勇気をふりしほって子供たちだけで「晩を過ごし、翌朝には「ママ、ぼく一人で寝られたんだよ」とキラキラした笑顔で母親に駆け寄る姿が見られました。

深雪体験では、身体だけで斜面をダイナミックに滑ったり、目の前にそびえ立つ大きな雪の壁をたくましく登ったりする姿から一人一人の成長ぶりが見られました。また、夜には、かまぐらや雪灯籠に灯りをともし、幻想的な世界の中で過ごした時間は幼児たちの心にずっと残る思い出になったことと思います。



全ての利用者にとって利用しやすい「国立妙高青少年自然の家」

3 ユニバーサルデザインを意識した

環境づくり



国立妙高青少年自然の家は、年間13万人以上の方に利用していただいている施設です。国内は全国各地から、海外の団体からも利用していただいています。年齢層も幼稚園児から社会人までと幅が広く、教育関係者だけでなく初めて利用するファミリーもいます。また特別支援学級や特別支援学校など障がいのある方々からもご利用いただいています。今回は、私たちが、全ての方にとって利用しやすい施設を目指して環境整備に取り組んでいる一例を紹介します



1. 食堂の流れ

「箸を取り忘れてしまう…」慣れている職員でもそんなことがよくありました。盛り付けの手順を並んでいる時に事前情報として掲示し、現地にも大きく番号で示しました。食器の片付け方も、食事をしているテーブルに示しました。



2. 靴箱

「自分の靴がない」「どこに置いたっけ？」浴室やプレイホール1階の靴箱でよくある場面です。そこで、靴箱に番号を表示しました。自分の靴をどこに置いたかを色と番号で覚えたり、毎回同じ場所に置いたりできるようになりました。

利用者の皆様から書いていただいたアンケートを貴重な意見として参考にさせていただいています。まだまだ課題が多くありますが、来年度も継続して施設環境の改善に努めていきます。

3. 時計

自然の家の時計は、木調で妙高の自然にマッチしたデザインの商品が使われています。しかし、数字の表記がされていないため、小さいお子さんにはわかりにくくなっています。そのため「時計を見て行動」がなかなかできません。現在は、バリアフリーでご利用いただけるオリオン棟で数字表記を貼り付けた物を用意しています。



4. トイレ

和式のトイレが多い自然の家では、小さいお子さんや体が不自由な方には使いにくくご不便をおかけしています。今まではどこが洋式なのか表示がありませんでした。扉の関係でわかりにくい場所もありますが、トイレに入ったら洋式のマークが貼られている扉を探して下さい。

洋式



三条市立大島中学校の取組

国立妙高青少年自然の家では三条市立大島中学校からの依頼を受け、職員が学校に伺い、長期キャンプで開発した「ねらいを明確化したステージ制」や「お互い認め合い高め合う望ましい集団づくり」等の手法を使って、教育活動のお手伝いをさせていただきました。
この3年間の取組の成果を、大島中学校から紹介していただきました。



大島中学校は、教育目標「正しい判断 たくましい実行」、重点事項「島中絆づくり」ひとりりをのぼすみんなでのびる」をもとに、小規模校の弱みと強みに立脚した教育活動を展開しています。当校では、きめ細かい教育が可能です。子どもの発信力や人間関係の硬直化に課題がありました。そこで、5年前に中学校3年間を見通した人間関係構築プログラム「島中絆タイム」を構想し、3年前からは、「国立妙高青少年自然の家」から指導者を招いた活動を年間5回実施しています。

指導者を招いた活動の特徴は4つあります。まず90分～180分の時間を確保すること。そして事前事後に指導者と教師がミーティングを行い情報共有すること。さらに、固定化されたリーダーや人間関係の脱却をねらい、「全員がリーダー」「傍観者にならない」を生徒に呼びかけて活動すること。最後に、生徒の「選択」を尊重し、心と体の安全を確保することです。

大島中学校の年間計画は、他の行事との接続を考えた指導者の活動を入れる1年単位の視点と、3年単位の個を成長させる視点で作成しています。例えば、1学期の始めに指導者による全校で取り組むものを入れ、次に生徒が企画する行事を入れて達成目標のイメージ化に繋げる。1学期の終わりに3年生単独で高度な「挑戦」をさせ、2学期の行事や進路選択への勇気づけの場とする、などです。

また、昨年度からは中学校区教職員で国立妙高青少年自然の家を訪れ、実際に人間関係づくりのプログラムを体験しています。「体験→理論」の研修も行うことで、活動への理解を深めたり教職員の絆を強めたりしています。



●「島中絆タイム」年間計画●

時期	行事名	指導者	難易度	時数	対象者および参加形態						備考
					1年	2年	3年	小学生	職員	PTA	
4月中旬	1,2年合同絆タイム	自然の家	中	3	○	○			☆	見学	
4月下旬	PTA総会・全校絆タイム	自然の家	低	2	○	○	○		☆	見学	全校
5月中旬	生徒総会絆タイム	3年生	低	1	○	○	○指		☆	見学	全校
5月下旬	「ゴミ拾いウォーク」パフォーマンス	3年生	低	2	○	○	○指	すべて	☆	○	校区全児童生徒
7月中旬	いじめ見逃しゼロスクール集会	3年生	低	2	○	○	○指	小5,6	☆	見学	全校高学年児童
7月中旬	3年絆タイム	自然の家	高	3			○		☆	見学	
//	1年小5絆タイム	自然の家	低	3	○			小5	☆	見学	
11月上旬	体験入学	自然の家	低	2	○	○			☆	見学	次年度全校
11月下旬	1,2年親子絆タイム	自然の家	低	2	○	○			○☆	○	
2月初旬	生徒総会絆タイム	2年生	低	1	○	○指	○	小6	○☆	見学	全校
2月中旬	入学説明会絆タイム	2年生	低	1	○	○指			○☆	見学	次年度全校

○…対象者 ☆…観察者・支援者

●9年間の人間関係構築プログラム●

各小学校でのソーシャルスキルトレーニング(SST)→島中絆タイム 組み合わせと活動のねらい

学年	小学1～4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
大島小におけるSST	道徳として 各学年ロールプレイを中心に					
須頃小におけるSST	生活指導として 全校体制と学年の取組で					
大島小中学校における「島中絆タイム」						

学年を空けることで積極的な動きを誘発

リーダーの力量向上

次年度中学校を組む学年で交流

経験を積み保護者と一緒に





大島中学校の成果

全国学力・学習状況調査結果チャートでは、この活動を3年間継続した平成25、26、27年度中学3年生において、「言語活動・読解力」「自尊感情」「規範意識」の項目での数値が全国平均を大きく上回っています。下表は今年度の生徒質問紙の項目別「1・当てはまる」の回答率で、いずれも全国平均より高いという結果が出ました。大島中学校では授業においても、主体的・協働的な「聴き合い・学び合い」を大切にしており、成果を上げています。この他者と学び合う姿勢作りには、「島中絆タイム」での他者との関わり方や関わる喜びを体感する経験が大きく影響しています。学力も3年間の中間の向上が見られます。

また、中学2年生は「目標を見失いがち」と言われる時期ですが、大島中学校でも、リーダーシップ測定尺度アンケート（※1）で平成26、27年度の2年間、2年生の結果は下降しました。しかし、3年生で再度調査をすると大きく上昇していることが分かりました。これは、活動の計画的な実施を継続することが、2年生の時期に自分自身の課題を認識すること、そして課題を乗り越えるための準備をすることに繋がった、と言えるのではないのでしょうか。

国立妙高青少年自然の家に支えられた大島中学校の教育活動は、地域や保護者に広く認識されています。活動で得た喜びを子どもから聞いた保護者が、学年PTA行事「親子で活動する妙高アドベンチャー」を3年前に立ち上げました。現在は1、2年生とその保護者による「親子・島中絆タイム」として定着しています。

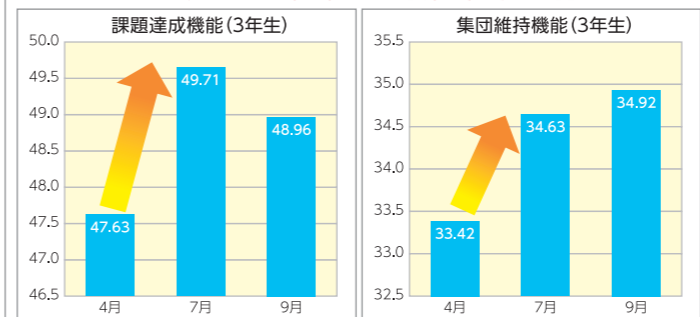
質問番号	質問事項(一部省略)	当てはまる当校(全国比)
8	話し合うとき、友達の意見を最後まで聞くことができるか	72.0 (54.7)
26	学級で協力し、何かをやり遂げうれしかったことがあるか	68.0 (56.0)
32	学校の規則を守っているか	80.0 (58.8)
33	人の気持ちが分かる人になりたいか	92.0 (58.8)
34	いじめは理由があってもいけないか	84.0 (73.0)

平成27年度 生徒質問紙

結果<3年生>

「課題達成機能」「集団維持機能」ともに事前(4月)から、事後(7月)への数値は有意に向上した。

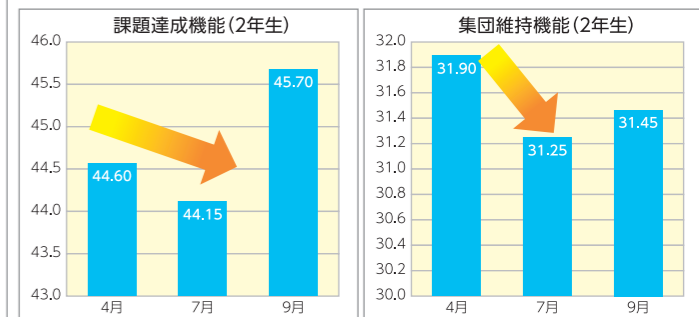
▶リーダーシップの数値は事前(4月)から、事後(7月)へ有意に向上した。



結果<2年生>

「課題達成機能」「集団維持機能」ともに有意差なし。

▶リーダーシップ(課題達成機能と集団維持機能の合計)に有意差なし



■生徒の感想

協力することで、男女とか気にせずに夢中になってやれることが分かりました。来年はもっと多くの人と絆を深めたいです。(2年)

活動が終わるたびに「後悔」していましたが、今回はありません。声も出せましたし、うまくやれたと思います。「挑戦」できて良かった。(2年)

1学期は中学校にまだ慣れていなくて、人と話すことがきらいでした。でも「島中絆タイム」を全校でやったときは、2、3年生とも活動することができました。2学期の活動で、楽しいと思うようになり、最後の活動ではみんなと協力してやることができました。(1年)

「挑戦」を最初から無理、と思わずに「何回かやれば、できる」と思えるようになりました。他のことでも「挑戦」してみようと思います。(1年)

1年の時は何も分からないままやっていたし、緊張していました。2年になるとだんだん楽しくなっ



きました。3年になると「どうすればうまくいく？」など、考える力がついてきました。(3年)

1年の時はおどおどして先輩に迷惑をかけていました。でも「島中絆タイム」をしていくうちに自分の意見や考えていることを言うよう

になり、今ではみんなをまとめたりもできるようになりました。

最後の活動では、自分だけでなく、「全員がリーダー」になっているような感じがしました。成功はしなかったけど、とても楽しかったです。(3年)

3年間の活動を通して自分が成長できたかどうかは分かりませんが、でも、声をかけ合う大切さや協力、団結という言葉の意味をこれからは生かすか成長していかかどうかが決まると思うので、油断せず頑張っています。(3年)



毎回、活動をとっても楽しみにしています。

学級担任として、生徒の様子を注意深く見ているつもりです。ですが、自然の家の職員が「いろいろな人と関わらねばならない場面」を作ってくださるのを「観察する」機会には本当に貴重です。

「自分から声をかけられる子だったんだ！意外だったなあ」とか「この子、心配していなかったけど、これから気をつけて見ていこう」とか、発見があり、その後の教育活動に生かすことができました。

いろいろな活動(アクティビティ)を知ることが、本からもできますが、自然の家の職員が、生徒の様子を見ながら臨機応変に活動を組み立てていたり、生徒と話し合いながらルールを新たに設定したりするのを見て、活動をする際のコツが分かったように思います。教えていただいた活動は教科の授業にも生かしています。

■先生方の感想

全校で活動した後で「クラスでもしたい！」と生徒に言われ、昼休みにはクラス全員で「人間知恵の輪」をしたことがあります。生徒は

この3年間の取組の中で一番重要だと感じていることは、「連携」です。自然の家職員と大島中学校の先生方との連携。そして、大島中学校区の小学校と中学校の先生方との連携。子供たちが充実した活動をするためには、まずは指導者の連携がとても重要だということを改めて感じました。子供たちの実態や指導の在り方、活動後の変化や成長について議論することは、その活動に関わるすべての人にとってメリットとなります。

今後も、この取組の成果を学校や地域の応援団として、様々な場面で生かしていくことが、国立妙高青少年自然の家の使命であると考えています。





大地のひみつ探検隊

糸魚川ジオパークを活用した理科学習プログラムの開発



開発のポイント

- (1) 糸魚川・妙高におけるそれぞれの現地学習との位置づけを明記した指導計画の作成
- (2) 学習者の発達段階や理科学習に即した学習資料の開発
- (3) 妙高市立妙高小学校・糸魚川市立下早川小学校によるプログラムの実践・検証



事業の成果

- (1) 理科における重要な4体験「本物体験」「個別体験」「直接体験」「感動体験」をキーワードに指導計画への位置づけ
 - ①「本物体験」を充実させるための支援
 - ・児童の理解を促すために、屋外での露頭学習で活用できる、絵や図を活用した学習資料の作成
 - ・露頭の写真や地層の形成過程のイメージ図を拡大した「パネル」の作成
 - ②「個別体験」「直接体験」を充実させるための支援
 - ・「個別体験」を重視した露頭見学や岩石採集時間を出来る限り長く設定したプログラム構成
 - ・「直接岩石に触れる体験」を重視し、石灰岩化石探しや糸魚川海岸でのヒスイ探し体験の導入
 - ・砂岩泥岩互層の露頭では児童全員に鎌を持たせて「個別」の探求活動が実施できる道具の確保
 - ③「感動体験」を充実させる支援
 - ・フォッサマグナム見学を指導計画上に位置づけ、岩石に関わる多様な学習の場の確保
 - ・まとめ活動として、モデル校2校による学習交流会の実施による意見交流の場の設定
- (2) 学校教員・理科関係教員への広報によるプログラムの充実
 - ◇糸魚川ジオパーク日帰り学習プログラム/上越市立直津南小学校6年生
 - ◇妙高火山学習プログラム/文京学院大学女子中学校 妙高市立新井中学校1学年

指導計画上の位置づけや指導資料などの充実を図ることで、学校団体のニーズに応えられることがわかりました。今後も、より学校にとって使いやすい広報資料の充実も図っていきたく考えています。

小学校6学年の理科学習の現地学習において、糸魚川市ではジオパーク学習プログラムがあり、国立妙高青少年自然の家では、「妙高火山学習プログラム」が活用されています。今回は糸魚川ジオパーク学習プログラムと妙高火山学習プログラムを共に学び、それぞれの地域のメリットを生かす新たな理科学習プログラムの開発を行いました。

妙高火山学習・糸魚川ジオパーク学習における学習指導計画

時	学習活動	教師の支援・留意点	評価基準及び評価方法	学習場所・指導上の留意点
第1次 6時間	<p>〔活動のきっかけ〕 ○実際の露頭や地層の写真を観察する。</p> <p>問題 土地に縞模様が見られるのは、どうしてなのだろうか。</p> <p>○土地をつくっている構成物や層の広がりについて予想や仮説をもつ。 ○観察の計画を立て、観察する。</p> <p>問題 露頭を実際に観察したり、ボーリングの試料を用いたりして、土地をつくっている構成物や広がり、化石の存在を調べる。</p> <p>○地層の広がりについて考え、発表する。 ○まとめをする。</p> <p>見方や考え方 露頭を実際に観察したり、ボーリングの試料を用いたりして、土地をつくっている構成物や広がり、化石の存在を調べる。</p>	<p>◇学校の近くの露頭を概観する機会を設けたり、わかりやすい地層の写真を用意したりする。</p> <p>◇ある場所の土地の構成物から、複数の地点の土地の構成物や広がりについて予想や仮説をもたせ、話し合わせる。</p> <p>◇野外の露頭に出る時は、崖崩れなどの安全に十分注意するとともに、土地の所有者などに許可を得ておく。</p> <p>◇学校や近隣の施設のボーリングの試料を用意するとともに、地域の立体地図などを用意する。</p> <p>◇地域の土地の構成物と比較するための貝や植物などの化石や、砂岩・泥岩・礫岩の標本を用意しておく。</p>	<p>関心・意欲・態度① 発言分析・記述分析</p> <p>技能① 行動観察・記録分析</p> <p>思考・表現① 記述分析</p> <p>知識・理解① 記述分析</p>	<p>○単元の導入：教室での事前学習</p> <p>○地層に関する興味関心の喚起</p> <p>・5学年「流れる水のはたらき」の復習</p> <p>・教科書をベースにした学習</p> <p>・ペットボトルモデル・堆積実験</p> <p>○科学技術用語の理解</p> <p>○屋外学習における安全指導</p> <p>○スケッチの仕方などの指導</p> <p>○現地学習に対する意欲付け</p>
	<p>問題 地層は、どのようにしてできるのだろうか。</p> <p>○地層が、流れる水の働きや火山によってできるかについて予想や仮説をもつ。 ○実験計画を立て、実験する。</p> <p>実験1 地層が作られる様子を、流れる水の働きによるモデル実験をしたり、火山の働きによってできる様子を試料などを用いたりして調べる。</p> <p>○水槽に水を張り土や砂を水で流し入れ、流水の働きによって地層ができる様子を見る。 ○資料などを用いて、火山の噴火でできた地層の様子を調べる。 ○モデル実験や資料など調べた結果から、考えを発表する。 ○まとめをする。</p> <p>見方や考え方 地層は、流れる水や火山の働きによってできる。</p>	<p>◇土地の構成物から流水や火山の働きで地層ができることを考え、海底での地層の堆積の様子を調べる計画を立てられるよう助言する。</p> <p>◇火山灰の堆積などでできた地層の写真などを用意し、資料活用できるように助言する。</p> <p>◇水槽の中に土や砂を流し入れ流れ込んだ物の堆積の様子を観察させ、地層ができていることを確認させる。</p> <p>◇火山灰の堆積などでも地層ができていることを確認させる。</p>	<p>思考・表現① 記述分析</p> <p>技能② 行動観察・記録分析</p> <p>知識・理解② 記述分析</p>	<p>○現地学習：糸魚川ジオパーク</p> <p>〔堆積岩〕</p> <p>・砂岩泥岩互層(浜徳合ジオサイト)</p> <p>・流水の作用(堆積モデルの併用)</p> <p>・石灰岩・化石</p> <p>〔火成岩〕</p> <p>・海底火山堆積物(弁天岩ジオサイト)</p> <p>〔発展学習・個別学習〕</p> <p>・フォッサマグナムミュージアム見学</p> <p>・化石・方解石・海岸岩石採集(美山公園・糸魚川ジオサイト)</p>
第3次 6時間	<p>〔活動のきっかけ〕 ○火山が噴火している様子や地震によって土地が変化した写真などを見る。</p> <p>問題 地層は、どのようにしてできるのだろうか。</p> <p>○火山の噴火や地震による土地の変化について予想や仮説をもつ。 ○火山の噴火や地震による土地の変化を、資料を活用して調べる計画を立てる。</p> <p>資料などの活用 資料を用いて、火山の噴火や地震による土地の変化を調べる。</p> <p>○火山の噴火や地震による土地の変化を考え、発表する。 ○まとめをする。</p> <p>見方や考え方 土地は、火山の噴火や地震によって変化することがある。</p>	<p>◇被災者などに対する配慮をしつつ、最新の地震や火山の噴火を話題に取り上げる。</p> <p>◇長い時間をかけてできる地層との違いを明確にしながら、短時間で大きな変化を起こす火山の噴火や地震による土地の変化の様子について予想や仮説をもたせる。</p> <p>◇火山の噴火や地震の前後の変化が分かるような資料を用意したり、インターネットなどを活用できたりするようにし、土地の変化の様子を調べさせる。</p> <p>◇調べたことを図や写真などを用いたポスターなどに表現させる。</p> <p>◇土地の作りと変化についての考えをまとめさせ、自然の力の大きさについての感想とともに記述させる。</p>	<p>技能① 行動観察・記録分析</p> <p>関心・意欲・態度② 記述分析(ポスター)</p> <p>知識・理解③ 記述分析</p>	<p>○現地学習：妙高火山</p> <p>〔堆積岩〕・堆積岩と火成岩の比較</p> <p>〔火成岩〕・火砕流堆積物の広がり</p> <p>・火砕流動画の視聴</p> <p>・妙高山の成因の学習</p> <p>〔発展学習・個別学習〕</p> <p>・火砕流露頭見学(妙高・糸魚川)</p> <p>・火山灰・安山岩採集(妙高)</p> <p>・火山灰顕微鏡分析学習(妙高)</p> <p>・溶岩流による火山地形の学習(妙高・糸魚川)</p>

発展

- 岩石採集・化石採集・火砕流堆積物採集 → 岩石に自ら触れる体験・学習後の岩石標本つくりとして活用する。
- フォッサマグナムミュージアム見学 → フォッサマグナの形成過程・ヒスイ・石灰岩・様々な岩石・ジオサイトについて学ぶ。
- 火山灰分析 → 個別の顕微鏡分析・鉱物を実際に手に触れる体験を取り入れる。
- 妙高山・焼山の比較学習 → 妙高山・焼山の特徴・地元の火山について学ぶ【総合的な学習との関連】

【 文部科学省 理科観察実験の手引き 183Pから引用作成 】



2回目は新潟市の越前浜にある新潟県立青少年研修センターで小学校3年生～6年生を対象として行い、登山をしました。越前浜には、角田山という海に面した標高480m程の山があります。山から眺める日本海や新潟市内の景色は絶景です。低山とはいえ、初めて角田山に登る参加者がほとんどです。登山自体がはじめての参加者もいました。活動の見通しが持てるように、登山コース図だけでなく、険しい坂や危険箇所、目安となる案内板の写真や目安時間なども付け加えた登山マップを作成し、それを見ながら登山を進めました。

体験の風をおこそう運動



参加者からは、「カヌーの乗り方がわかりやすく、上手くなれた」「これから登山があったときに今回の経験を役立てたい」などの声がありました。また、「知らない人と話すのが苦手だったけど、参加して少し得意になった」「助け合ったり、協力したりして友達が新しい友達がたくさんできた」といった声も多かったです。体験活動そのものの楽しさに加えて、参加者は活動を通して新しい友達ができたり、交流を深めたりできたようです。体験活動の醍醐味ですね。

はね馬キャンプは「体験の風をおこそう」運動の一環として、新潟県内の小学生に自然体験活動の機会を提供したり、活動を通して参加者の交流を深めたりすることをねらいとして行っています。各回とも県立の青少年教育施設と連携し、各施設のフィールドやそれぞれの季節の特性を生かした活動プログラムを中心に1泊2日で実施しました。このキャンプでは、特集Ⅰで記載した「ユニバーサルデザイン化」にも挑戦してみました。



1回目は胎内市にある新潟県少年自然の家で県内の小学校4～6年生を対象として行い、カヌーをしました。カヌーは、胎内川の河口付近で行いました。流れがない所～適度な流れがある所まであるので、初心者にとっても非常に楽しめるフィールドです。楽しい活動である反面、様々な危険を伴う活動でもあります。また、カヌーを操作するために少し技術も必要です。今回は、参加者が活動の流れやカヌー操作のコツ、危険性などをわかりやすく理解できるように、プログラムボードや写真、見本などを交えながら活動を進めました。



妙高の特色

ある活動

雪の妙高

夏の妙高



深雪体験 深雪体験は全身を使って「雪」の中で遊ぶことを通して、冬の自然体験活動への興味・関心を高めま
す。また、森での発見を通して、気付く力や探求する力を育みます。自然の家の周辺には深雪体験ができるフィールドが多くあります。3メートルを超える雪の中を、ひじやひざ、おなかも使って上手に進んだり、登ったりします。子供にとっては大冒険です。普段は手や足だけで感じている「雪」を全身で感じることで、子供たちは大はしゃぎです。
冬の森には、いろいろな動物の足跡がたくさんあります。運がよければ真っ白なウサギに出会えることもあります。坂をごろごろ転がったり、おしりで滑ったり、下に向かってジャンプしたり……。雪は子供の遊び心をくすぐり、遊びこむことができます。

源流探検

源流探検では、冷たく澄みきった水の中を歩き上流を目指します。途中で、水生生物を捕まえたり小さな滝つぼを越えたりする場面があるのですが、カワゲラやトビゲラの仲間、サワガニなどに加え、時にはイワナを見つけることもあります。多くの子供たちは、「ザリガニを見つけない」と言うのですが、まったく見つかりません。それもそのはず。源流の水があまりにもキレイなため、ザリガニのすみかとしてはふさわしくないのです。子供たちは、このように自らの体験から生き物の生態などを自然に学んでいきます。
また、特に幼児の場合、冷たい水の中を歩き、さらに滝を越えるとなると怖いと感じる子もいます。しかし、勇気をもって乗り越えることで大きな自信を身に付けていきます。さらに、滝を登れない友だちがいると手を差し伸べたり、励ましたりする場面も多く見られました。
このように、源流探検では、学びや気付きに加え、人とのかかわりや自己の高まりなど子供たちが大きく成長をしています。



雪灯ろう

灯ろうは、灯（あかり）籠（かご）と書き、古くから照明などに用いられ、寺院で見かける石灯ろうが有名です。国立妙高青少年自然の家では、雪国ならではの活動プログラムの一つとして「雪灯ろうづくり」を提供しています。
雪灯ろうは、明るい昼間に友達と協力して作り上げます。子供たちはスコップやバケツ、ペットボトルなどの道具を使って、創造しながら様々な形の雪灯ろうを完成させます。そして、夜を待って一斉にろうそくを灯します。
一面銀世界の夜に柔らかな灯に包まれた幻想的な空間が出来上がった後、子供たちは、お互いの作品観賞会を開催したり、雪国についての話し合いをしたり、今日一日の活動の振り返りをしたりと様々なバリエーションで活動することができます。晴れていけば冬の星座観察も加えることにより、たいへん有意義な活動となります。また、「かまくら」も同時に完成させて、雪灯ろうをかまくらの中に作れば、「かまくらの家」が完成します。暖かい空間を体で感じながらの楽しい活動もお勧めします。
妙高の「雪灯ろうづくり」は、子供たちのふれあい・協力の場として、創造力の向上と達成感を味わうことができる楽しい活動プログラムです。是非体験してください。



藤巻山登山

藤巻山は四季折々の自然やブナ林など豊かな自然を満喫できるコースです。自然の家を基点とする歩き応えのあるコースが往復10kmで所要時間5時間程度、バスなどを利用して休暇村妙高の駐車場を基点とするコースが3kmで所要時間3時間と学齢期、体力に応じて登山をすることができます。
コース上、天気の良い日には高田平野が一望でき日本海が見えるポイントや、頂上直下の稜線は気分爽快です。また、天然のブナ林があり新緑はとても美しく、紅葉の頃はブナの実もたくさん拾うことができます。
登山は心肺機能の強化のほかに、筋力や持久力、そしてバランス感覚など幼少期に身につけたい36の基本動作（山梨大学中村教授提唱）のうち歩く・登る・渡るなど10以上が含まれ体力向上に繋がります。また、仲間と協力し最後までやり抜く体験は、達成感や自己肯定感の向上も期待できます。



妙高を支える人たち

NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会
(妙高ネイチャープログラム)

澤田 賢一

自然体験活動を成果あるものにするためには、子供たちの今までの体験や経験、知識を有効に機能させることが必要であり、「聞くよりも見ること、見て考えること、考えて行動すること、そして行動して成果を出すこと」が大切なプロセスであると考えます。

時々、活動中に子供たちから「図鑑やインターネットで見たのと違う」というつぶやきが聞こえてくる場合があります。確かに図鑑やインターネットでは、動植物の実際の大きさは分かりませんが、植物などは臭いや味、感触などは実際に触れることで初めて気づくことがたくさんあります。子供たちが実際に触れることで、体験活動の後に発信される言葉は自信に溢れ、表現が豊かなものとなります。

また、人のかかわりにおいても、体験活動中に滑りやすい斜面や大きな段差を通過するときに、仲間と差し出す手は思いやりであり、仲間から差し出された手に感謝を感じるのも自然体験活動の成果だと思っています。



陶芸家

岡田 八重子

国立妙高青少年自然の家では、平成25年度〜27年度に次の企業からご寄付をいただきました。

国立妙高青少年自然の家で陶芸の指導をするようになって何十年でしょうか。今年も沢山の作品に会うことができました。自由作品の高校生。カップ、皿、飯茶碗に挑戦した小学生。親子で皿を作った幼稚園児。

始めるのに少し時間の必要な高校生も素晴らしい作品になりました。小学生には基本の作り方を説明します。耳がついてネコになったり、ハート形のカップにしたり、頑張って星型のペン立てに個性豊かです。園児は、うさぎ、車いすの形に今大好きな物を書いてくれます。

色を自分でぬることはできないので、私に色指定を書いてもらい、私が色をぬります。ハートにも、それぞれ希望があります。ピンク、白、水色、黒もありました。素焼きの後一つ一つ色を入れないながら私にとっても大切なかわいい作品になります。子供たちにとっても楽しい陶芸の思い出になるように願って、これからもお手伝いさせていただきます。



妙高を支える人たち

株式会社ニッコトラスト
食堂店長 太田 利和

国立妙高青少年自然の家食堂では、楽しく美味しく、食堂利用も体験活動の一つと考え取り組んでいます。

メニュー作りでは、月にテーマを決め、季節の食材、郷土料理、地産地消を推進しています。お米は、地元関山産のコシヒカリを使用し、妙高市で開発した華麗舞においては、チャーハン、ドリア、スイーツ等タカレイライス以外の料理としても提供しております。

初めて食堂を利用する方にも、分かりやすく、①〜⑥番の数字で利用手順を表示してあります。また、食物アレルギー対応が必要な方には、事前に連絡を取り、安心して食事が出るようになっています。

これからも、自然の家食堂が、体験活動の楽しかった思い出になれるように、励んでまいります。



国際自然環境 アウトドア専門学校

副校長 永井 将史



当校は、「自然の保護と利用に関する領域において確かな専門性と豊かな人間性を持った人材の育成」を理念とした専修学校として、「妙高だからこそできる教育の実現」を目指し、地域に開かれた学校運営による地域貢献と教育の融合を目指しています。これらの観点から、国立妙高青少年自然の家とは様々な連携をさせていただいており、そのような連携の一つとして協賛させていただいています。

具体的には、インターンシップ実習として、自然の家の長期キャンプ「MYOKOチャレンジ」における指導スタッフを当校の学生が務めたり、「森林管理実習」として自然の家の敷地内の森林整備を行ったりしています。いずれも、キャンプ参加者との関わりや、施設利用者の利用を想定した実習で、校内の授業では実現できない実践的な教育を展開することができています。

今後様々な形で両者にとって、また、施設を利用する子供たちにとって有意義な連携を実践していきたいと考えています。



国立妙高青少年自然の家では、平成25年度〜27年度に次の企業からご寄付をいただきました。
(敬称略・五十音順)

(有)アイビオート

朝日酒造(株)

家、Sハセガワ(株)

(株)大谷ビジネス

大塚製菓(株)長岡出張所

岡本石油

小山(株)新潟営業所

頸南バス(株)

(株)謙信堂

高坂防災(株)

国際自然環境アウトドア専門学校
サントリービバレッジ

サービス(株)上越支店

(株)スワロースキー

(株)第一印刷所上越支店

(株)高館組

(株)桐朋

永田印刷(株)

新潟みらい建設(株)上越営業所

(株)西脇電気商会

(株)ニッコトラスト

(株)バーツプロダクション

(有)白星社

ホシザキ北信越(株)上越営業所

(株)丸山酒造場

コカ・コーライーストジャパン(株)

妙高観光開発(株)

(株)妙高カントリークラブ

(株)横瀬オーディオ

(株)渡辺リネン

新しい公共型の運営で地域と共に歩む

国立妙高青少年自然の家は、ここ新潟県妙高市に国立青少年自然の家として十四番目でかつ最後の国立青少年教育施設として設置されました。設置にあたり地域の方々が熱心に誘致をしてくださったと聞いています。この地は世界有数の豪雪地帯で、昭和二十一年一月十七日に日降雪量二百センチメートル(国鉄による観測)を記録し、山岳を除く非公式記録としては世界1位を記録しています。この雪に恵まれた環境によりスキーがとて盛んで、スキーをとおして大人が地域ぐるみで子供たちを育成するすばらしい伝統が受け継がれています。しかし旧妙高村時代に四十年以上にわたり行われてきたスキー大会が、高速道路や新しい道路建設等により開催ができなくなりました。また、趣味の多様化などでスキーをする子供も減少傾向にあるとのことでした。

当施設の新しい公共型の運営では、地域の方々や日本を代表する研究者や実践者にも参画していただき、施設や地域の課題についてご意見をいただくと共に、職員と一緒にその課題解決に向けて取り組んでいただいています。

一例を挙げると、以前より地元の多くの方から「地域の大人や子供と一緒に、スキーと交流をとおして、様々なことを学びあえる場の復活を！」との思いをいただき地域の方々や企画委員会を組織し、妙高ジュニアスキー育成会、妙高スキー協会から主管を務めていたとき、陸上自衛隊のご協力を得て「妙高山麓ライン滑降スキー大会」を復活することができました。また、多くの組織の方々の後援や地元企業や商店が協賛をしてくださり、オール妙高で支えてくださいました。

これからも地域の思いをしっかりと受けとめ、皆様方の期待に応えられるよう、新しい公共型の運営で地域と共にしっかりと歩んでいきたいと思っています。

妙高を支える人たち

平成27年度 事業報告

MYOKOチャレンジ2015

新潟と長野の県境をフィールドにした、移動型のキャンプです。12泊13日の日程で、信越トレイル、信濃川、野尻湖、妙高山の大自然にチャレンジしました。



幼児キャンプ

大自然の中で、年間2回の幼児キャンプを実施しました。夏はオリエンテーリングや親子別々でのテント泊、冬は深雪体験や雪像づくりを行いました。



体験の風をおこそう運動 「つなごろう はね馬キャンプ!」

新潟県立青少年研修センター、国立妙高青少年自然の家との連携事業です。



教員免許状更新講習

体験活動の教育的意義やその指導方法を理解し、教員としての資質・能力の向上を図りました。



第4回妙高山麓ライン滑降スキー大会

全長3.5km (低学年2km) のダウンヒルレースです。スポーツに対する関心を高めるとともに、健康な心身の保持増進を図ります。



感謝祭

ご利用いただく皆様に感謝の気持ちをこめて、活動プログラム体験、ステージ発表、クラフト体験などを行いました。



Information

Info.1 平成27年3月14日 北陸新幹線開業!

自然の家がぐっと身近に!!

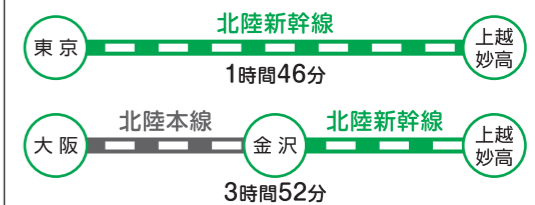
北陸新幹線が開業し、妙高地域へのアクセスがしやすくなりました。



団体割引を利用すれば、お得に乗車することが可能です。

また、上越妙高駅から大型バス等を手配していただくことで、小回りの利く集団宿泊体験ができます。

電車でのアクセス



Info.2 風だよりもがfacebookへと完全移行!



従来より、もっと早く、ホットな妙高の様子をお届けできるようになりました。

法人ボランティア登録をしている方を対象に「妙高ボランティア」のページもありますので、法人ボラのみなさんお友達登録をお願いします。



当所のホームページから見ることもできます。

ホームページ: <http://myoko.niye.go.jp/> 国立妙高 検索

他にも様々な事業を行っています。詳細はホームページ (<http://myoko.niye.go.jp/>) をご覧ください。 国立妙高 検索

Information